



界と日本」、「世界の地理・旅行記・宗教」、「世界の思想」、「世界の百科事典」などのジャンルに分けて、高校生の皆さんに馴染みがあると思われる本や、大学生の知識としてお薦めできる本など、併せて36点を展示しました。このようなことから、本学の学生の皆さんにも見学していただい、会場となった閲覧室には多くの人がつめかけました。



展示会の一風景



展示目録と見学記念葉

なお、見学者には20世紀初頭に活躍したイギリスの挿絵画家アーサー・ラッカムの作品を表紙にあしらった展示目録と葉（しおり）が配られました。

「貴重書デジタルアーカイブ」に古辞書を追加掲載

本学図書館はホームページ上で公開している「貴重書デジタルアーカイブ」にこのほど、古辞書4点を追加掲載しました。この貴重書デジタルアーカイブは、貴重書一冊を全頁にわたってデジタル化（電子化）したもので、毎年一定の予算を充当して進めてきたものです。



「貴重書デジタルアーカイブ」のトップページ

これまでに、江戸時代から明治時代初期にかけて我が国で作られた語学辞書を中心にしてこの事業を進めており、ここに掲載されたものは、この4点を含めて合計15点になりました。

なお、今回追加した4点は熊秀英著『蛮語箋』（寛政10-1798年）をはじめ、奥平昌高編『蘭語訳撰』（文化7-1810年）、尚友堂主人編『和英通韻以呂波便覧』（慶応4-1868年）、さらには青木昆陽著『和蘭文字略考』（延享3-1746年〈大正6年複製〉）などとなっています。

この貴重書デジタルアーカイブには、1点ごとに資料解説がつけられていますので、我が国の対外交渉の歴史の中での語学辞書の発達を確認していただき、外国語を学ぶあなたの知識と教養の一部にいただければ有り難いと思っています。